

新しい生活様式でのスタート -ウィズコロナの生活-

生徒が新年度のスタートに心を躍らせる中、始業式、第74回入学式を迎えましたが、その後新型コロナウイルス感染症拡大によって休校となり、1カ月半を家庭で過ごすこととなりました。6月からの授業再開後は、検温、マスク着用、換気、密集を避けた授業スタイルなどに加え、生徒たちのアイデアを取り入れたリモート集会やウェブ会議など、新しい生活様式で学校生活を送っています。授業の遅れを取り戻すために、計画的に授業を進めています。



ウェブによる生徒集会の様子

草刈らなど里に帰れば乱れ咲くホタルブクロに紅ツツジあり  
新調の遮光ネットは威力あり三十八度の中にキュウリ生り初む  
田の面を吹き来る風の涼しさに仰ぎし雲の白さ目にしむ  
大雪の山は健やか我等みなここに育ちて穏やかな日々  
なみなみと水張る稲田は緑沓え精霊トンボが舞い飛びており  
金柑の葉を青虫は食べ尽くし枝に隠れて蛹となりぬ  
星空に明るく輝く星三つ指差しながら三角むすぶ

短歌会

有久 賢治  
梅田 國雄  
佐藤せい子  
中村 正市  
中村トシエ  
馬場 礼子  
松本 東亜

白南風やガラシヤ廟にも供養花  
散歩道雨に降られて虹を見た  
耳癢に嬉しく聞こゆ蝉しぐれ  
狭庭今沸騰中や蝉時雨  
立秋やいよよ復活豊肥線  
豊肥線復元列車盆迎ゆ  
亡き友に貰ひし苗の半夏生  
出勤の子を見送るや朝の虹  
雨上り淡き面差し合歡の花

菊陽句会報

田島 三間  
宮川ユキエ  
紫藤 祥子  
曾我 育代  
曾我トモ子  
緒方チエ子  
米山るみ子  
吉田 幸子  
木村 信子

母さんは小さくなったね盆帰省  
里宮へ二礼二拍手青葉風  
コロナ禍やマスクの会話帰省子と  
今は昔五風十雨の言葉あり  
笑顔のせ夏の阿蘇へと汽車は行く  
ゆあみして少しおすましゆかたかな  
顔を寄せ合ふ線香火花かな  
村の床屋本業合間に袋掛け

志賀キヨ子  
財津 早雪  
原野レイ子  
寺尾千代子  
高橋 孝子  
福田 貴子  
北川しんじ  
佐藤 澄世

きくよう文芸

人権啓発標語 「心で聴き 体で感じ 言葉で伝える」

菊陽中学校 2年 田中 あゆ(現在3年生)

「水俣」の学習で学んだこと



水俣に見学に行くのが楽しみです

うわさは、信じていいことと悪いことがある。うわさは、本当かどうかは分からない。  
うわさや差別は、相手のことを考えず、自分がよければやってしまう。

「自分がよければ、相手にやってもいい」「わたしとあの人はちがうんだ」と、順位を決めたがる。でも、こんなことはまちがっているんだ。  
わたしは悪いことをいっしょにやりたくない。そんなことを言ったら、わたしの行く場所はなくなってしまいうるのか。いや、そんなことはない。  
やっていることが差別やいじめだと分かっていたら、まちがったことだとわかっていれば、あとは勇気さえあれば自分がかえることだってできる。正しいと思う

武蔵ヶ丘北小学校 5年 平坂 美貴

ことを信じていればいつかは分かってくれたりする。  
うわさだって、いじめだって、差別だって、相手もみんなも、正しいことが分からないとなくならないし、終わらない。一人になっても、たとえ一人でも正しいこと、思うことが言える勇気があるといいと分かった。  
いじめや差別やうわさは、自分の弱い心からひろがっていく。  
相手のことより自分のことを優先して、相手の気持ちを考えないことから始まること分かった。わたしはこれからこの学んだことに気をつけていきたい。

(先生から)

「水俣」問題の学習をしてつづった作文です。内面を鋭く見つめ、自分の弱さで人を傷つけたりしたくないという強い気持ちが文章に表れています。「勇気があれば、変えることだってできる」「信じていれば、いつか分かってくれる」…語り部の杉本栄子さんの思いをしっかり受け止めています。

菊陽町「人権に関する町民意識調査」結果概要について③

今回は関心のある人権上の課題と人権に関する教育・啓発活動についての結果をお伝えします。

＜関心のある人権上の課題・講演会や研修会への参加について＞

13の人権課題についての関心では「障がい者の人権」の割合が47.9%と最も高く、次いで「子どもの人権」が46.4%、「女性の人権」の44.4%の順になっています。熊本県(平成26年人権に関する県民意識調査)の調査結果と比較すると3項目とも町の方が高くなっています。関心の高さがうかがえます。水俣病、ハンセン病回復者等、HIV感染症・難病等、性的マイノリティをめぐる人権課題に関して30%をこえる「わからない」の結果もありました。個人人権課題の現状認識の深まりを図っていく取り組みが必要です。

講演会などの参加については「参加したことがない」が75.8%でした。不参加の理由は「関心がない」が34.2%で、「開催を知らなかった」が31.3%でした。関心をどう高めるか、開催の周知をどう図るかの工夫が必要です。

